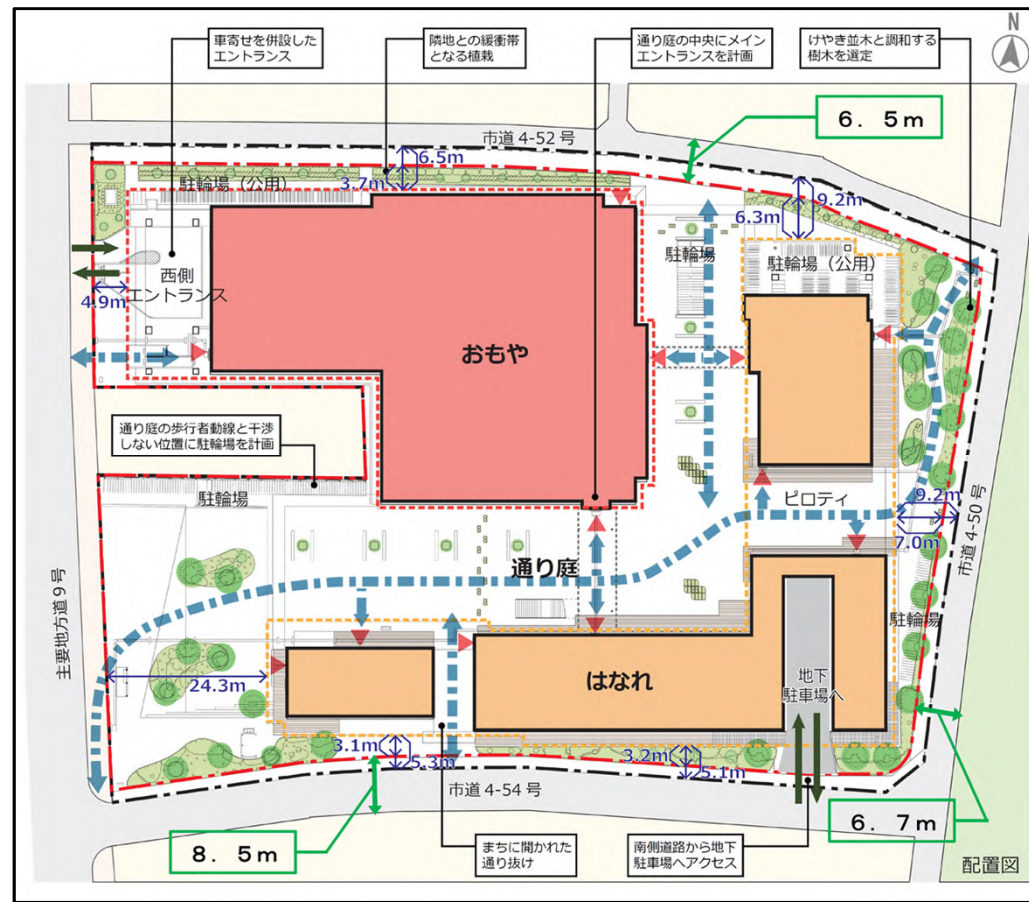


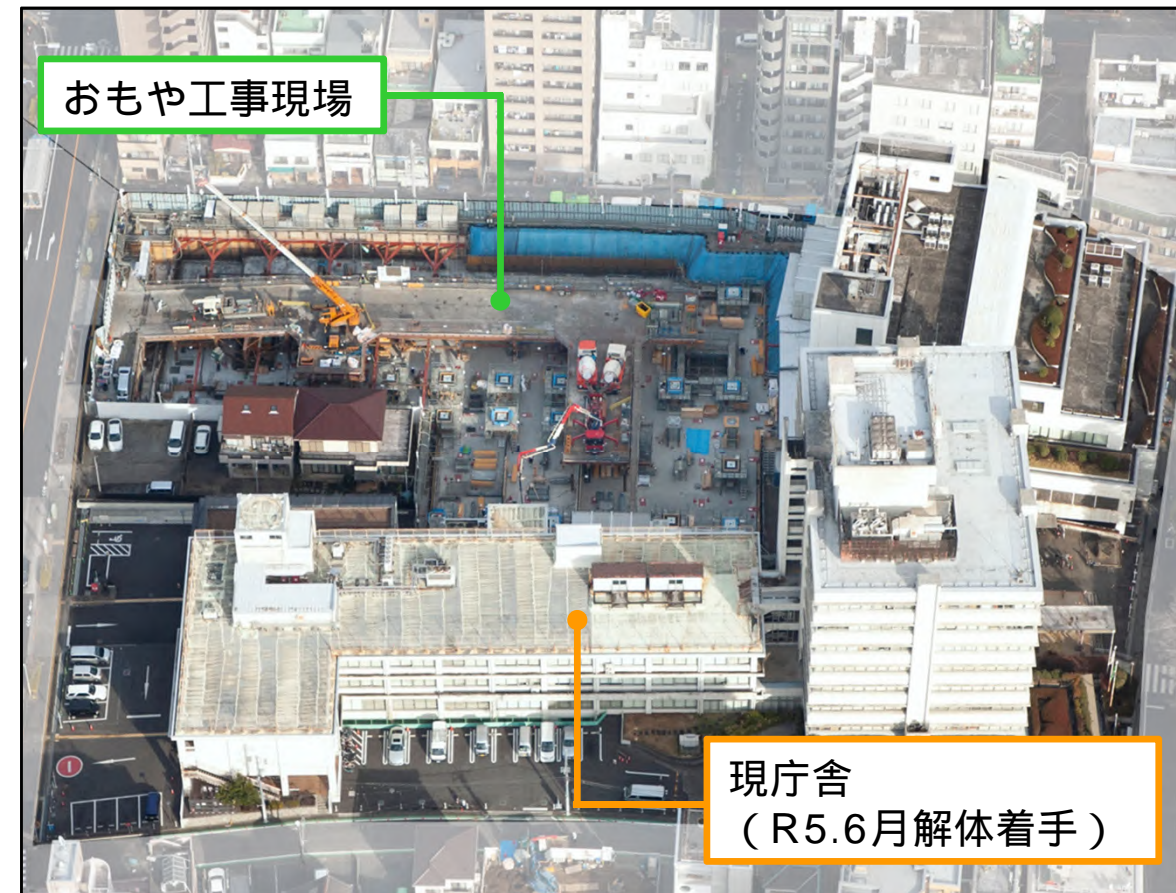
【建物概要】

敷地面積	11,064.85㎡
用途	事務所、図書館、店舗、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造)
階数	地上6階 地下1階
最高高さ	30.14m
延べ面積	32,362.67㎡
建築面積	6,349.29㎡

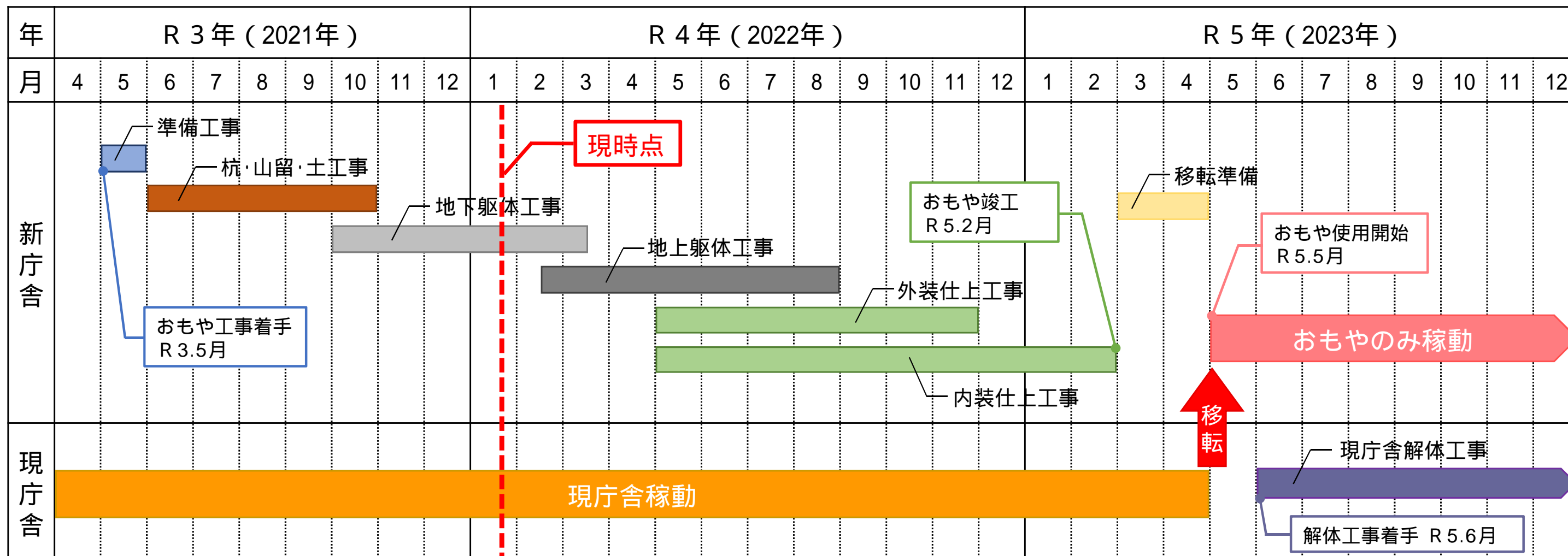
【配置計画】



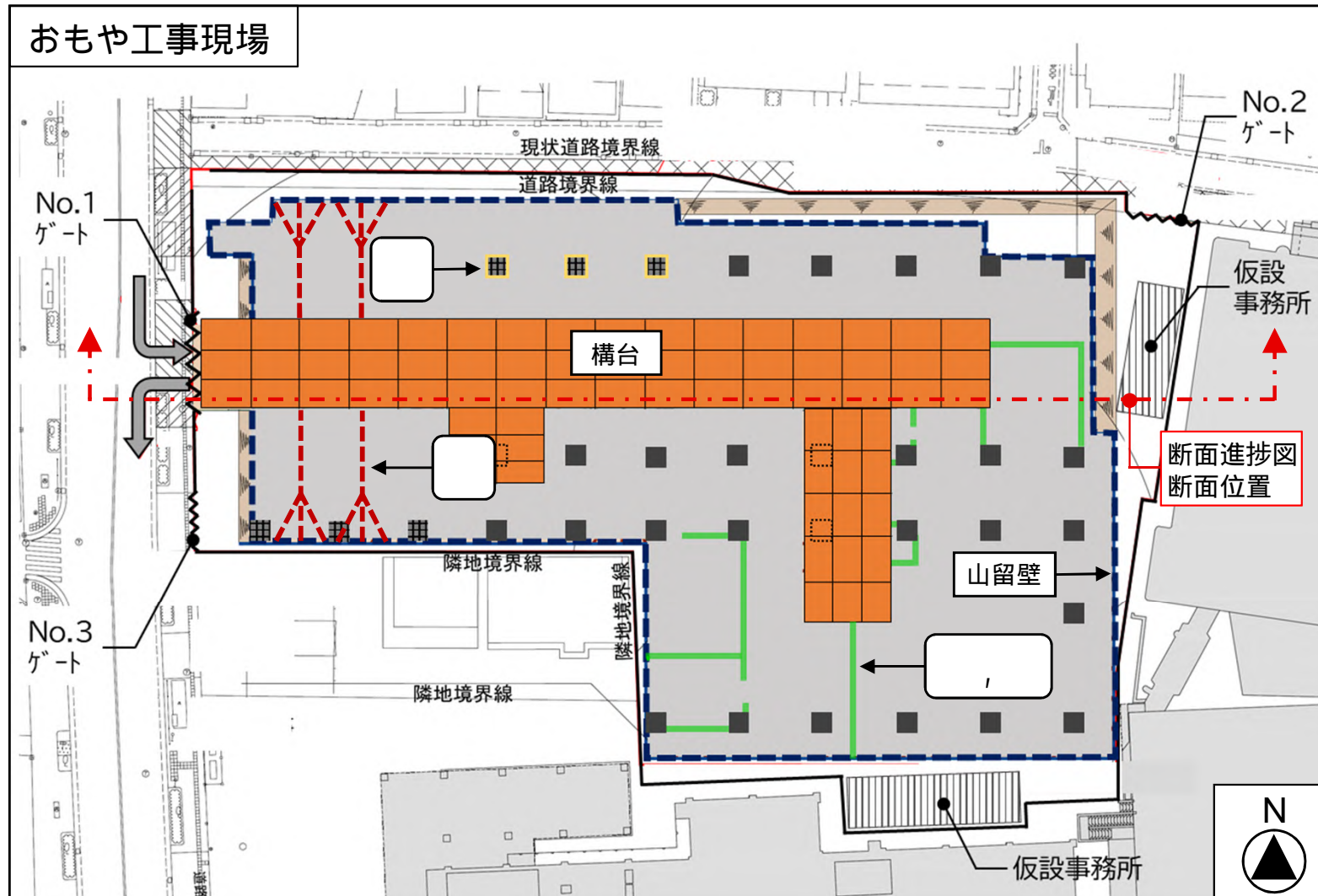
【航空写真 (R4.1月18日時点)】



【工程表】



【平面進捗図】

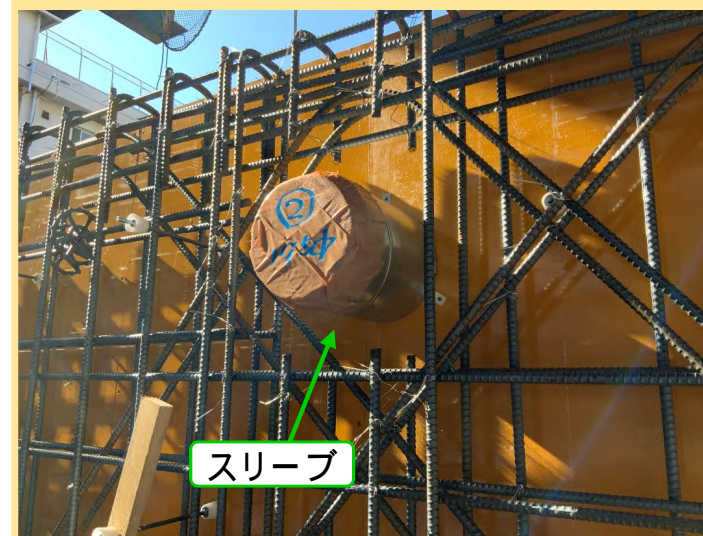


【地下1階壁】配筋・型枠工事



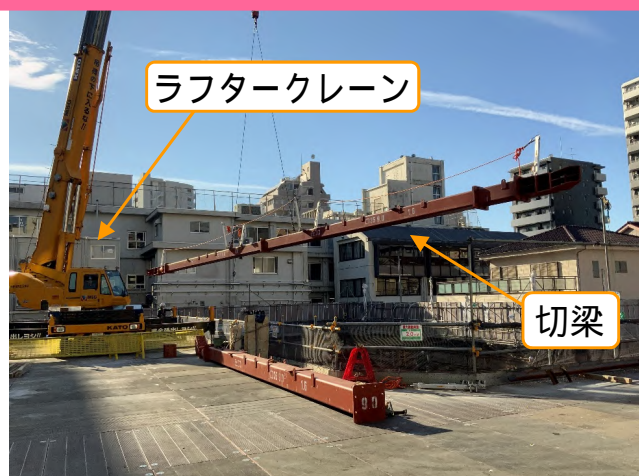
- ・地下1階の壁の配筋・型枠工事を進めています。コンクリート壁の厚さを正確に確保するため、「セパレーター」という金物を等間隔に設置します。
- ・鉄筋と型枠の間には、適切なコンクリート厚さを確保するために、「スペーサー」を取り付けます。その形状から作業員の間ではドーナツと呼ばれています。

【地下1階壁】スリーブ工事



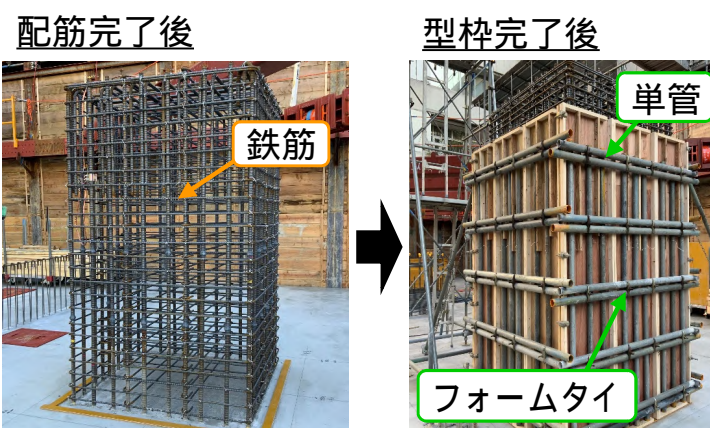
- ・「スリーブ」とは、壁や床に配線や配管を通すための貫通穴のことです。コンクリートの打設の前に、スリーブ材と呼ばれる管材などを所定の位置に設置します。
- ・スリーブ材には、亜鉛鉄板製や塩化ビニル製、紙製などがあり、用途や取付場所に応じて使い分けています。

切梁(きりばり)解体工事



- ・地下1階の床までの躯体工事が完了したことで、切梁で掘削面の土圧を受ける必要がなくなったため、ラフタークレーンで解体作業を行っています。
- ・解体作業は、周囲の土圧の変化を軸力計で観測しながら慎重に行われました。

【地下1階柱】配筋・型枠工事



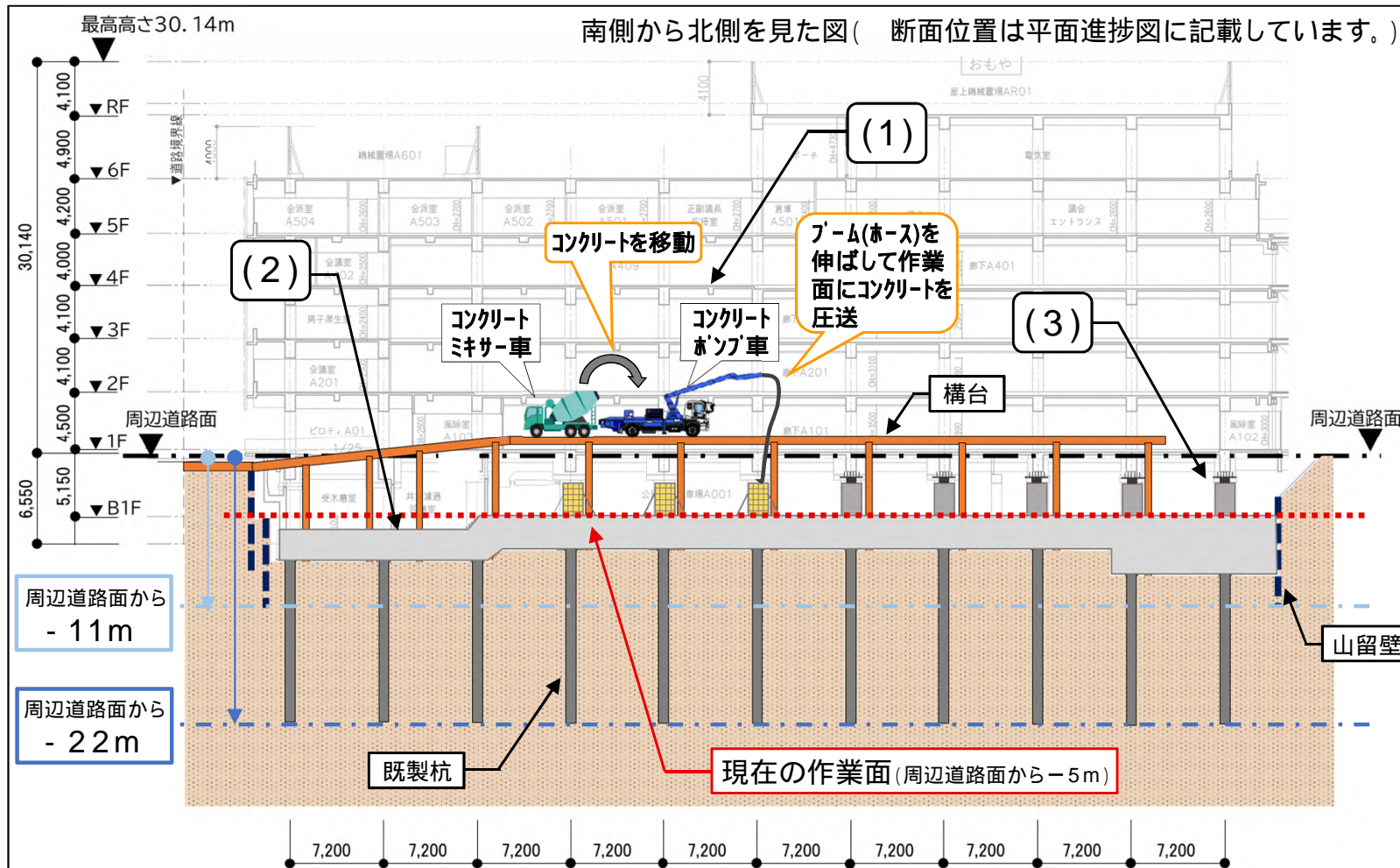
- ・地下1階の柱の配筋作業を順次行っています。柱は、幅1.6mあり、建物を支える上で重要な役割を果たします。
- ・配筋完了後に、コンクリートを流し込むための型枠を組み立てます。木製の型枠を「単管」と「フォームタイ」という金具で緊結し、固定していきます。

職人さんの紹介: 土間屋さん



- ・コンクリート打設時に活躍するのが土間屋さんです。打設後のコンクリートが完全に固まる前に、「コテ」を用いてコンクリートを押さえることで、表面を平滑に仕上げます。
- ・作業範囲が広い場合には「プロペラ」という機械を使用します。円形状の鉄板が回転することで表面を押さええます。

【断面進捗図】



(2) 墨出し



- ・墨出しとは、設計図面に記載されている寸法通りに、実際の現場に基準となる線を描き出す作業のことです。
- ・「測量機器」を用いてミリ単位で正確な基準を出していきます。写真の機器は目標物に光を発射し、反射して帰ってきた光を解析することで距離を計測できます。

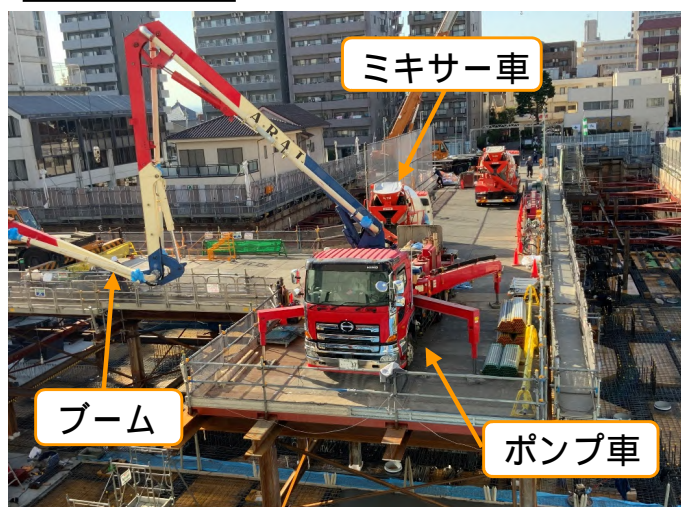
(3) 免震装置設置工事



- ・地下1階の柱の上部に「免震装置」を設置します。免震装置には、免震ゴムやオイルダンパー等の種類があり、写真の「免震ゴム」は地震時に水平方向に変形して地震の揺れを逃がす役割を果たします。
- ・「免震ゴム」は約7ミリのゴムと約5ミリ鋼板が交互に積み重なって構成されています。

(1) 【地下1階柱】コンクリート打設工事

構台上の様子



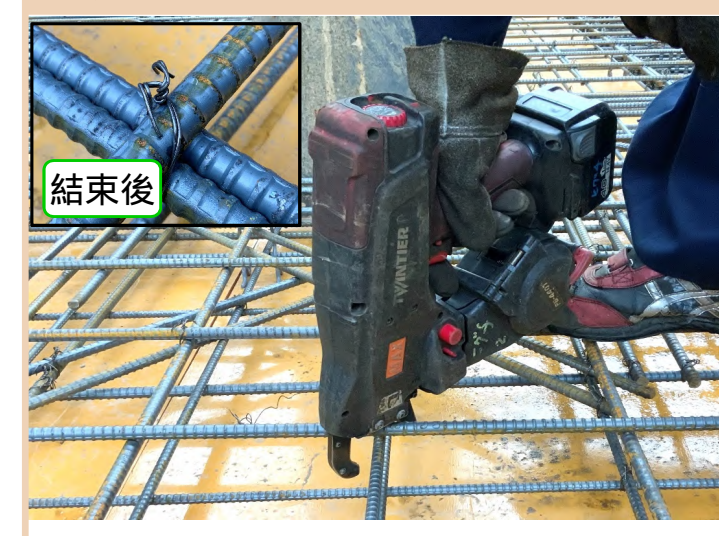
- ・コンクリート打設時には、構台上から「ポンプ車」が「ブーム」を伸ばすことで作業面までコンクリートを圧送しています。
- ・「ミキサー車」は、多いときで1日あたり約60台を搬入しています。

打設時の様子



- ・柱の打設は、柱の上部からコンクリートを流し込みます。その際に、型枠の内側では振動機を用いてコンクリートの締固めを行い、外側では木槌で叩いて型枠内に満遍なくコンクリートが行き渡るようにしています。

工具の紹介:鉄筋結束機



- ・「鉄筋結束機」は、鉄筋がずれないように、鉄筋と鉄筋をワイヤーで結束する機器です。機器の先端を鉄筋交差部に差し込み、トリガーを引くだけで自動での結束が可能です。
- ・写真の「鉄筋結束機」は1か所あたり約0.7秒で結束することができ、作業の効率化を図っています。